

愛知県

個別避難計画作成モデル事業（加速化促進事業）

地域で作る個別避難計画

令和5年度個別避難計画作成モデル事業成果発表会

令和6年3月12日（火）14：00～

福祉局 福祉部 地域福祉課 福祉活動支援グループ

- 1 何を達成するか、課題は何か（最重要なものを1つ）
→個別避難計画を1件も作成していない市町村を減らす。

愛知県の個別避難計画策定状況（令和5年1月1日現在）

	全部作成済	一部作成済	未作成
市町村数	2	35	17

未作成市町村（17）の人口規模

	10万以上	5万以上10万以下	5万未満
市町村数	1	8	8

2 達成のために何を実施するのか、実現や解決のために効果的と考えた理由

令和5年1月1日現在の愛知県の個別避難計画策定状況で未作成の市町村は17市町村でその内約半数が人口規模が5万未満であった。

県は実施主体である市町村の現場の問題点が把握しづらいことから、昨年度も実施している美浜町を支援することで、昨年度の問題の解決や方法や、実施方法のノウハウを吸収し未実施市町村に還元する。

美浜町個別避難計画作成事業予定表

年月 実施項目	令和5年							令和6年		
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業計画説明会		7/28								
意見交換会					10/27 中間報告会			1/25 最終報告会		
避難行動要支援者名簿の更新		↔								
支援者募集 (広報誌、ケーブルTV、HP等)				広報 掲載				1/8-21 絶賛 放送中		
対象世帯の訪問、説明				対象世帯 説明会		推進強化期間				
個別避難計画の作成		事例集 配布	←							
避難訓練等 (福祉関連施設を含む。)				福祉避難所 訓練 (150名)						
普及活動 (出前講座)	←			上野間 自主防		町内福 祉施設	河和 自主防	福岡 県庁	福祉 研修	→

支援者に対する負担軽減策（提案）

- 支援のランク化
災害リスクと本人の健康状態を確認し、支援のランク化を図る。

		災害リスク	
		ハザード内	ハザード外
対象者の健康状態	A 専門的な支援が必要 (透析、酸素吸入など)	S 救助機関対象者	A 避難誘導対象者
	B 寝たきり、車いす必須者	A 避難誘導対象者	B 声掛け対象者
	C 杖、シルバーカー必須者	B 声掛け対象者	C 見守り対象者
	D 歩行可能者	C 見守り対象者	C 見守り対象者

地区防災計画などに反映（標準化）することで支援者の負担軽減を図って行く。

それぞれのランクに合わせた支援行動

手順書（手引き）の作成

- 若松モデルを推進していくためには、手順書を作成し、その手順書に沿って個別避難計画の作成をしていく方が効果的との意見が区長から出され、防災課の方で「個別避難計画作成に関する手順書」を作成し、各区長に配布しました。



全体の流れ。



- 要避難行動を支援する支援者は、役員（区議会議員、班長）が職名により指定することを、役員会等で了承を得る。
(P1参照)



- 台帳登録者の現状確認（入所、入院患者を除外）
- 対象者のハザード（土砂、浸水、津波等）を確認
(P2参照)



- 訪問の目的を伝える
- 様式に併せた聞き取り調査の実施
(P3参照)



- 聞き取りの結果、記入した「個別避難計画」を清書する。
(P4参照)



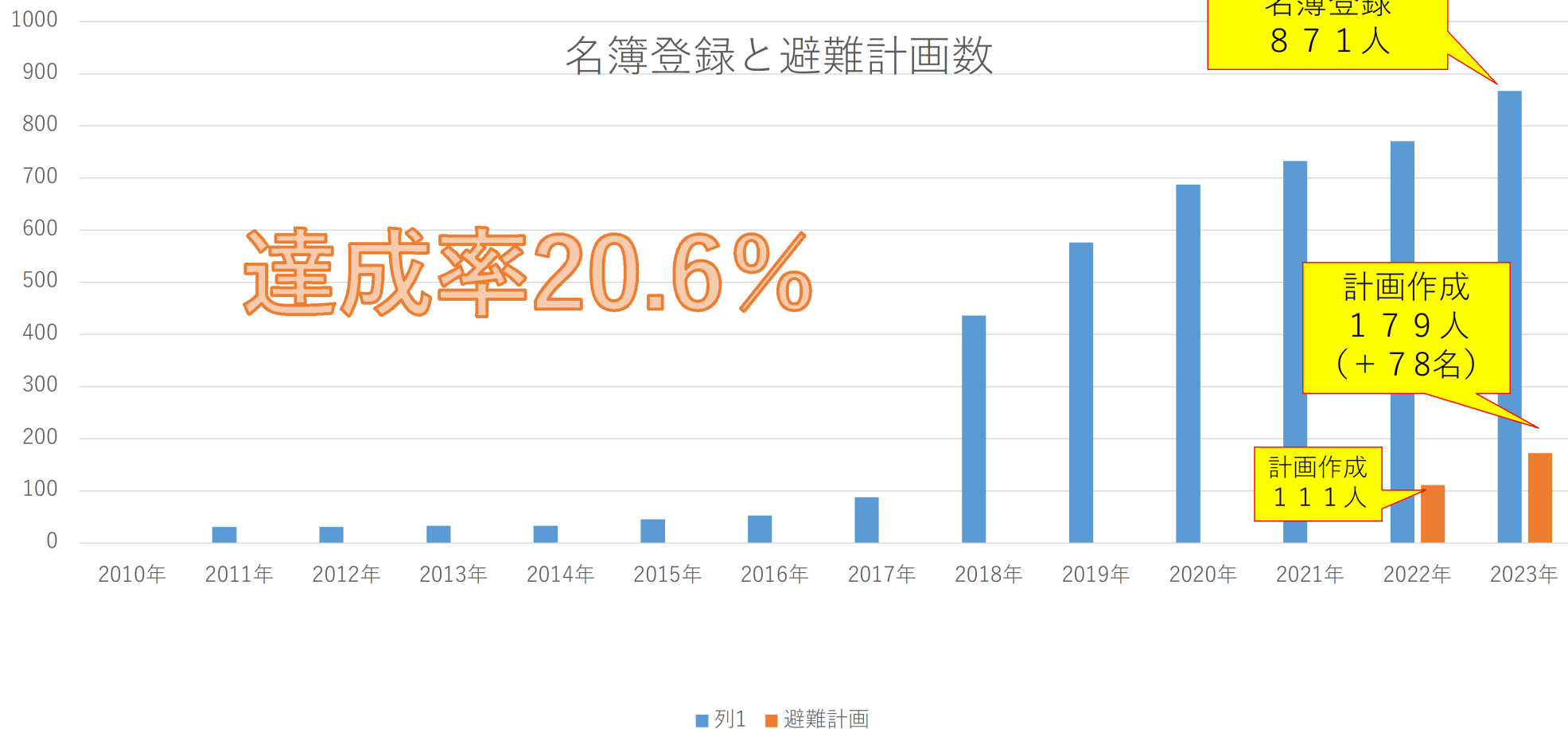
- 清書した「個別避難計画」及び「交付金交付申請書兼実績報告書」を役場に提出
(P5参照)



- 交付金は区に振り込まれます。

美浜町全体の状況

令和6年2月末現在



愛知県の個別避難計画策定状況（令和5年10月1日現在）

	全部作成済	一部作成済	未作成
市町村数	2	50	2

- 未作成の17市町村（1月1日）が2市町（10月1日）まで**減少**
- モデル事業を実施して**見えてきたこと**
市町村が何をボトルネックと感じているのかという事の**見える化**が図れた
（現場が見えにくい県が、市町村の取り組みを確認）
市町村の**疑問点へのアドバイス**
（国、県内の他市町村等の好事例の提供 ※同じ問題を抱えている市町村は多い）
県、市町村が**補完しあうことが重要**
- 私の感じた主な**地域のボトルネック**
都市部の問題点：避難行動要支援者の**顔が見えない**
：**コミュニティが希薄化**
人口が少ない市町村の問題点：**避難等支援者も高齢化**
- 来年度以降
未作成市町村の解消を図りつつ、各市町村において可能な限り速やかに個別避難計画の策定を進めていただく